

令和5年度 愛媛県がん診療連携協議会  
第2回がん看護専門部会 議事録

開催日時 令和6年1月23日(火) 14:00~14:45 WEB会議  
開催場所 四国がんセンターから発信  
司会進行 がん看護専門部会会長 四国がんセンター看護部長 大西 玉美  
出席者自己紹介 (出席者はがん看護専門部会員)

#### 開会の挨拶 (大西部会長)

本日はご参加いただきありがとうございます。令和6年度能登半島地震においては大きな被害と犠牲が出ています。ご冥福をお祈りいたしますとともに、そこで生活されている方、支援をしている方においては、感謝申し上げます、この会を始めさせていただきます。

今年度のがん看護実践能力向上研修会を予定通り12月7日で閉会することができました。研修環境を整えていただいた看護部長様をはじめ各施設の企画委員の方々に感謝申し上げます。

皆様のところは、新型コロナウイルス或いはインフルエンザ感染状況はどのようになっていますでしょうか。全国的にも増加しており、当院においても職員や患者中心に感染報告が増えています。感染対策の継続とともに、年度末に近づき看護職員が減少するなか、各施設においても看護師確保に苦労されていると思います。皆様と必要時に情報共有を行いながら、各活動を盛り上げてまいりたいと思います。

#### 出席者紹介

出席者一覧にそって紹介 (【愛媛県立中央病院】は、看護部長代理として副看護部長様が出席)

#### 議事内容

##### 1. 第2回専門部会報告会(8月5日)の報告

###### 1) 愛媛県がん診療連携協議会組織について (別紙1)

- ・がん地域専門部会は、当初、連携パスを作成し運用する目的にて開始された。今回の指針からは、連携パスの要件は外れ、通常の診療として組み込まれた。そのため、活動を一時休止する。連携パスは引き続き活用し、パスの更新や新規パスの立案は各施設に一任する。事務局が、施設基準の届け出を確認し、パスの集計のみを行う。部会ホームページに掲載しているパス使用数は、年1回事務局が更新する。他のがん診療の連携においては、「緩和ケア専門部会」、「がん相談支援専門部会」等が中心となって行う。
- ・PDCA部会の活動においては、各専門部会がそれぞれ担当している活動と、部会横断的な活動等があった。これにおいては、PDCA部会のコアメンバーによるミーティング、PDCA部会、幹事会の3階構造という複雑な仕組みになっていた。幹事会の中に、各部会で行うべき活動や部会横断的な活動を支援・検討する小グループを作る事になり、幹事会WGの結成となった。
- ・診療提供体制の中にある希少がん・難治がんの患者の診断、治療に関しては、積極的に都道府県協議会における役割分担の整理を活用し、対応可能な施設への紹介やコンサルテーションで対応していくこととなり集学的治療専門部会が担当する。
- ・よって、今回8月の委員会において、一部変更した組織図で活動することが決定した。

##### 2. がん看護実践能力向上研修の進捗状況報告及び課題

## 1) がん看護実践能力向上研修会中間報告（資料3）

- ・修了式、1 か月後のフォローアップ研修が終了した。後は3 か月後フォローアップ研修のみとなっている。
- ・中間報告として、自己評価の平均点の変化を抽出した。受講開始前と事例発表後で平均点がどの項目においても上がっている。今回初めて中間評価を集合形式とし、受講者とファシリテーターが全員参集した。対面でのワークとしたことでWeb と違い、受講者の細かい捉え方を確認できる点が非常に良かった。受講者間あるいはファシリテーターらと共に、事例をどのように捉えたか確認することができた。しかし、後期実施後から実習までの期間が大体1 か月開くことで、講義の内容と実習をどのように結び付けることができるのかが課題となった。実習開始時期をもう少し前倒しすべきかについては企画委員会で検討していく。
- ・12月の事例発表会時に、ワークを実施、今後の課題についても話し合った。事例発表会は、実習修了1 か月後であったため、実習で学んだ内容を各病院の中で発揮しながら活動し、そこで見えてきた課題についても発表があった。更に1 か月後フォローアップ研修においても、事例発表後の課題と1 か月後フォローアップ研修の課題の内容が重なっている部分があった。そのため事例発表会を実習終了から1 か月後としたが、期間を短くした方がいいのか検討したい。現在、コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症は、時期を問わず発生している状況である。実習期間中に感染症に罹患した場合、実習時期を調整しているが、事例発表会までの時期を短くすることで、『実習する期間が少ない』『実習を振り返る期間が空かない』等となり、どのくらい期間を開けるのが良いか意見をいただきたい。
- ・フォローアップ研修はWeb で実施した。中間発表会の時に対面で行ったときのような非常に深いグループダイナミクスは難しいという印象があった。Web の場合、質問して回答するやり取りが続く。3 か月後フォローアップ研修が1 回残っているが、その結果も踏まえ、次年度は1 か月後フォローアップ研修を対面で行う事も検討したい。企画委員からもこの意見が出ているが、集合の機会が増えることによる各病院の負担等も踏まえ意見をいただきたい。

→実際に参加し「現場で参加してよかった」、「こうした方がさらに良くなる」等意見を願います。

(愛媛大学)「対面で色々話し合いができた」と、研修生から好評的な意見を聞いている。コロナウイルス感染症もあり、自施設で実習をしていたが、四国がんセンターの緩和ケアを見て、他施設を見るいい機会・いい刺激になったと聞いた。ぜひ対面を増やせるなら、お願いしたいと思う。

## 2) トピックス研修（オンライン研修）

テーマ：がん治療に伴う妊孕性への影響と妊孕性温存への対応

日時：令和6年3月8日（金）17：45～19：00

- ・テーマは、ニーズや必要性について検討し、企画した。今年度は、愛媛大学医学部附属病院の先生、愛媛県県立中央病院の先生に協力いただき、開催する。
- ・本研修にて妊孕性を取り上げた背景として、拠点病院の報告書を年1回提出しているが、その中で「自施設の妊孕性温存に対応できる、相談できるスタッフの育成を各施設でしているか」があった。妊孕性の対応となると対象者が絶対的に少ないというところがある。四国がんセンターは若年の患者の受診はあるが、

その中でも対象となる方は5%前後である。そのため、研修を専門部会主催とすることで、受講希望者を多く募ることができると考え、研修のテーマとして決定した。

→研修案内の時期が、年度途中となった。ぜひ参加いただけるよう協力をお願いする。

### 3) 令和6年度研修企画計画にむけて

- ・講義終了から実習期間について、期間短縮に伴い事例発表会の前倒しとなり全体の日程が早まる、集合の機会を増加することを踏まえ考えた。日程案を参照しご意見をいただきたく、それを元に企画委員で検討する。
- ・予定変更としては、今年の開講は8月17日であったが変更はない。事例発表会は、12月7日が11月14日と前倒しとなる。1か月後フォローアップ研修は、1月12日から12月中の開催、3か月後フォローアップ研修は2月27日予定としているが1月23日となる。
- ・講義日程は変更していない。実習期間を11月半ばまで設けていたが10月31日までとし、その間に四国がんセンターの実習も組み込む。
- ・中間評価会は10月10日とした。実習開始は大体10月初め頃、終わりが10月半ばとして考えている。

→実習の時期などを少し早めることを含め、スケジュール等ご意見をお願いする。意見がなければ、企画委員を中心に検討させていただく。また、対面と形の効果も踏まえ、少し対面の機会も増やしていく方向で検討を進めていきたい。

(松山赤十字病院) 研修を基本的に対面で開催するということか。もしくは、Webを交えるということか。

→Webと対面を交えて計画する。日程案の桃色で強調している研修がWeb開催、緑色で強調している研修が事前課題発表会及び最終事例発表会として対面を考えている。

(済生会今治病院) 色々施設外で実習を行うことや、他施設の方との関わりから、少し自信をつけて普段の自分の振り返りができ、前向きにこれから頑張ろうという成長が見られた。

→研修によって効果があると非常に喜ばしいと思う

(松山市民病院) 去年と一昨年で2人ずつ参加した。対面での授業を受けることで、現場の実践からすごくモチベーションが上がっていると感じた。発表会については、Webでいいと思うが、その他の事については、対面で意見を聞き、直接してもらった方が、非常にモチベーションが上がっていると感じた。

→対面も考慮しながら、計画させていただく。

### 3) 全国がんセンター協議会加盟施設等看護部(局)長連絡会の紹介

- ・情報共有できればと思い、紹介させていただく。
- ・全国がんセンター協議会は各地域でがん医療を中心的に担当している医療機関が集まってできた協議会であり、その中での看護部が連携する会となっている。31~32施設が入っているが、全国がん協議会の看護部長間での連携を密にし、がん看護分野に関する、看護実践、臨床研究、教育研修、情報発信等を推進し、がん看護の質向上を図ることを目的に連絡会を設置されている。当会とも同じように2回開催という所で承認を得ている。2月と9月にオンラインで実施している。
- ・第1回連絡会の討議内容は、協議事項のほか、各施設から看護実践、臨床研究、教育研修、情報発信とともに専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了者の活用について発信があり共有した。がん診療連携拠点病院における外来機能について、診療報酬に基づいた外来機能の充実についての内容があった。今後求められる役割については、全がん協加盟施設のがん看護における課題の抽出及びその情報共有、専門看護師、認定看護師、特定

行為研修者との人材育成ならびに、その人材のリソースとしての活用方法の共有、院外に公開しているがん看護教育の広報及び、2週間以上の施設間連携などの人的交流の推進、令和8年度診療報酬改定に向けた、全がん協看護部の実態調査、意見のすり合わせ、厚労省への意見書の取りまとめといった内容が行われた。約1時間、各自がんセンター(中央がんセンター、東がんセンター等)でどのような取り組みをしているかを発信されたが、各施設それぞれの問題を抱えながら行っていることがわかった。1年に2回の開催であり、これを活かして情報共有等が出来たらと思う。

→専門看護師、認定看護師、特定行為研修者との人材育成について、意見交換できればと思う。研修受講希望者が今不足している状況がある。何か研修の取り組み・成果が活かされていることを教えていただきたい。

(質問) 専門・認定看護師育成が難しいという課題があるが、その傾向はどうか。

- ・研修費用の補助等がありアナウンスしているが、希望者がいない厳しい状況にある。院内研修として放射線がん看護、化学療法看護、緩和ケアの各分野院内認定看護師育成に組み込み、それを足掛かりにステップアップを期待しているが、苦慮している。

(質問) 特定行為研修における参加者の状況はどうか。

- ・がん専門病院での看護は、“寄り添う”ことを重要視する傾向にあり、ニーズにおいては難しい状況になっている。

(質問) 他の一般病院での、専門・認定看護師育成の状況はどうか。

- ・様々な認定取得に向け声掛けするが、家庭上の都合や認定取得の難易度が高いことなどの理由で手挙げがなれない状況である。また、職員の個々の状況からも苦慮している。

(質問) いいアイデアや成功事例等について意見を願います。

- ・研修費用の補助等や、資格取得後のインセンティブを期待しているように感じる。
- ・取得した資格によってインセンティブがあるが、取得後の役割遂行等を考慮すると職員にとって魅力をあまり感じられないかもしれない。
- ・当院も取得した資格によってインセンティブがある。次の世代への動機付けや、院内研修の工夫から興味あるものは出るが、いざ認定取得となるとそこに結び付かない現状がある。
- ・ご意見いただきありがとうございます。診療報酬上は専門性の高い看護師の配置が求められ、現場においては、当院が進める問題ではなく、本人の意思もあるため、非常に難しい所だと感じる。
- ・学生は認定看護師に憧れていて、なりたいというのを学生時代は語ってくれる。しかし、就職してくると、1、2年あたりでモチベーションが低下することが多い。そのモチベーションを維持し目指す看護師像に向かっているよう何とかしたいと考えている。認定看護師になれるベテラン看護師にインタビューした結果、大方が“忙しそう、大変そう”という意見だった。“楽しそうだ”という意見もあったため、現場で生き生きとして楽しそうに仕事をする場面をアピールしたい。しかし、がん看護実践能力向上研修受講者が緩和ケアの認定を目指すと思高くと志高くを言ってくれた。是非サポートしたいと考えている。

→がん看護実践能力向上研修がステップアップのきっかけとなるよう取り組む必要があると感じた。

4) 次回、がん看護専門部会の開催日程について

第1回：5月28日(火) 14:00~15:00 Web開催

閉会の挨拶（大西部会長）

がん看護専門部会の皆様との情報共有は、引き続きメールでやり取りができればと思います。よろしくお願ひ  
します。本日はかなり寒く雪が予想されています。何事もなく落ち着いて過ごされるようお気を付けください。  
以上でがん看護専門部会を終了いたします。お疲れ様でした。

令和6年度 第1回がん看護専門部会  
2024年5月28日（火）14:00~15:00